

I・HEAP (Historical Thinking for History Teachers)

## イントロダクション

担当：池尻良平（東京大学大学院情報学環）

ikejiri@iii.u-tokyo.ac.jp

著者（後半パートのため詳細は省略）

- ・ Tim Allender
- ・ Anna Clark
- ・ Robert Parkes

### ■用語

- ・ historical skill | 歴史的スキル
- ・ historical thinking | 歴史的思考
- ・ historical consciousness | 歴史意識
- ・ historical understanding | 歴史理解
- ・ historical knowledge | 歴史知識

### ■議題

①各自が興味のあるテーマや章は何かの共有と、担当する章の調整

-----  
※可読性を上げるため、本文中には書かれていませんが章タイトルを挿入しています。

### ■本書の構成 (pp.27-29)

#### ●パート1：オーストラリアの歴史カリキュラムを理解する

- ・近年のオーストラリアにおける歴史カリキュラムの発展の重要な背景を解説している。

1章：Tony Taylor | 歴史意識とオーストラリアのカリキュラム

Historical consciousness and the Australian Curriculum

→オーストラリアにおける国際的影響と政治プロセスの相互作用によって、オーストラリアのナショナル・カリキュラムが他の西洋国家とは違うものになったことを解説している。

2章：Stuart Macintyre | オーストラリアのカリキュラムを理解する：その歴史

Understanding the Australian Curriculum: History

→オーストラリアのカリキュラムを生み出した政治的・教育的進展について概説している。

3章：David Boon | オーストラリアのカリキュラムにおける初等教育の歴史の視点

A primary history perspective on the Australian Curriculum

→小学校の授業に関する議論をしつつ、どのようにナショナル・カリキュラムが探究の教育学への扉を開いたかを説明している。

**●パート 2：歴史的スキルの教授と効果的な評価**

・歴史的に考えることに焦点を当てた、より詳しい内容を紹介している。

**4章：Anna Clark | 学問的な歴史実践と学問的な方法**

Scholarly historical practice and disciplinary method

→教室で歴史的思考を教えることの可能性を探り、歴史には批判的で複雑な学問的アプローチが必要だが、それこそが生徒が歴史を最もよく学ぶ方法であると論じている。

**5章：John A. Whitehouse | 歴史的思考を促進する質問と資料の役割**

The role of questions and sources in promoting historical thinking

→授業中、歴史的思考のフレームにおいて効果的な質問をすることに焦点を当てている。

**6章：Robert Parkes | 歴史を教えるためのアプローチの開発**

Developing your approach to teaching history

→Peter Seixas の初期の研究を拡張・修正し、歴史教育に対する 4 つのアプローチを提示している。(批判－celebratory(祝い?)軸と、多元的物語－単一的物語 軸の組み合わせで 4 つ)

**7章：Tyson Retz | 歴史のエビデンスへのエンパシーと批判的検証の教授**

Teaching empathy and the critical examination of historical evidence

→感情的な次元としてのエンパシーと、認知的な行為としてのエンパシーが、過去と現在を分ける領域をどのように折衝できるかを解説している。

**8章：Deborah Henderson | 価値の本質と、歴史の教授と学習で価値が重要な理由**

The nature of values and why they matter in the teaching and learning of history

→価値の本質を解説しつつ、歴史的思考によって小学生 (schoolchildren) は過去の矛盾する説明に関連した価値に関する語彙を獲得できることを説明している。

**9章：Paul Kiem | 直接指導と歴史知識の価値**

The value of direct teaching and historical knowledge

→1980 年代の歴史教授の変更(探究やスキルの重視)が、今もなお影響力があることを示しつつ、歴史教師にとっては歴史知識を直接教えることが優先度が高いことを説明している。

**10章：Heather Sharp | 歴史の授業における評価のための探究アプローチ**

Inquiry approaches to assessment in the history classroom

→教室外からの評価の問題点と、生徒が評価プロセスの恩恵を受けられるようにするための、様々な評価形式と留意事項を紹介している。

**11章：Claire Gollidge | 授業における社会史**

Social history in the classroom

→社会史を教えることが、他の歴史授業の方略にとって重要な意味を持つことを解説している (例えば、エンパシーやエビデンスを教えることなど)。

●パート3：教授アプローチ

12章：Tim Allender | 歴史の教室における教師の話

Teacher talk within the history classroom

→経験豊富な2人の歴史教師の教室での実践を検証し、「教師の話」が、歴史の学問性を生徒に伝える上で、最も自発的で催促性の高い現象になっていることを示している。

13章：Jacqueline Z. Wilson and Keir Reeves | 戦争の物語の個別化と歴史にエンゲージすることの教授

Personalized narratives of war and teaching engaging history

→カリキュラムの中でよく見かける資料の調査を個人化した授業モデルを設計している。

14章：Grant Rodwel | 高次な歴史理解を展開するためのフィクションの利用

Using fiction to develop higher-order historical understanding

→適切に選ばれた歴史小説を用いて歴史の時代を比較する歴史教授について分析している。

15章：Kelly Freebody and Alison Grove O'Grady | 歴史教授におけるドラマ教育学

Drama pedagogy in the teaching of history

→ドラマ教育学が、教室でどのように歴史知識を構築させられるかを検証している。

16章：Debra J. Donnelly | 映画教育学の教育・学習サイクルへの組み込み

Integrating filmic pedagogies into the teaching and learning cycle

→歴史授業における映画の役割と、映画を使った効果的な歴史学習を提供するための実践的な教育方法を紹介している。

17章：James Goulding | 歴史的思考を深めるためのウェブサイトの利用

Using websites to develop historical thinking

→ウェブサイトの利用と、質の高いウェブサイトを資料として扱うことの重要性について考察している。

18章：Catherine L. Smyth | 初等教育の授業におけるデジタルテクノロジー

Digital technology in the primary classroom

→デジタルテクノロジーが、児童の歴史知識を深める認識的な能力の提供になっていることを解説している。

19章：Craig Barker | 歴史教授と博物館

History teaching and the museum

→博物館の教育者と教師とパートナーシップを築いて同じ学習成果の達成を目指しつつも、博物館ならではのアプローチを提供していることについて解説している

● **パート 4：オーストラリアの歴史教授で鍵となる論題**

・オーストラリアの歴史教育に関する一般的な論題とそれへのアプローチを説明している。

**20 章：Nina Burridge | 教室におけるオーストラリアの接触の歴史の視点**

Classroom perspectives on Australia's contact history

→オーストラリアにヨーロッパ人が入植した比較的短い歴史に対し、アボリジニの視点を取り入れることで、カリキュラムの主要な構成要素がどう充実するかを論じている。

**21 章：Heidi Norman | アボリジニの歴史と政治を教えるアプローチ**

Approaches to teaching Aboriginal history and politics

→ヨーロッパ前提の物語の束縛から離れて、アボリジニやトレス海峡諸島民の多面的な歴史を扱う方法と「深い歴史」について考察している。

**22 章：Yeow-Tong Chia and Kieren Beard | 歴史の授業でシティズンシップを教える**

Teaching citizenship in the history classroom

→西洋的なアプローチだけの歴史的思考の限界に触れつつ、東アジアの歴史と市民権の概念が、異なるパラダイム構造をもたらすことを論じている。

**23 章：Nicole Mockler | 歴史教師としての専門的アイデンティティのナビゲート**

Navigating professional identity as a teacher of history

→歴史教師の専門的アイデンティティを形成する影響力のある要因を検証している。

本書は、初等・中等教育の教師になろうとしている人、キャリアの浅い教師の両方を対象にしている。本書では、歴史理解、歴史意識、歴史リテラシー、歴史的エンバシー、歴史的推論、歴史的視点、歴史物語、歴史知識など、様々なレベルの学校における歴史教育に欠かせない用語を取り上げている。また、ポストモダニズム、文脈主義、相対主義、現在主義、唯名論などの様々な「主義」や、新しい歴史 (new history)、社会史、地方史、世界史、オーラル・ヒストリー、商品化された歴史など、様々な歴史の形態も取り上げている。本書が、オーストラリアの歴史教育に対し、学術的な観点から参考となることを願っている。